

平成26年度経営協議会における学外委員からの主な意見とその対応状況

学外委員からの主な意見	対応状況
<p>概算要求事項のうち「寒冷地域に最適化したスーパーハイブリッド型省エネ環境保全植物工場」について、どのようなモデルを考えているのか。</p>	<p>本学の強みとして、自然エネルギー分野の研究がある。メタンハイドレートやバイオエタノールの研究の基盤があるので、そういった研究を総合して、寒冷地でも栽培できるようなモデルを作ることで、省エネや技術移転を行うことでのグローバル化に繋がると考えている。</p>
<p>教員の基盤的研究の費用が細くなっている傾向があるが、北見工大ではどうなっているのか。</p>	<p>本学での教員あたりの研究費は減額しないよう運用している。法人化当初と比べても調整等で若干の減があるにしろ、大幅な減額は行っていない。 運営費交付金の中での10%の学長裁量経費の導入の趣旨については文科省から強い指導はないが、学長のガバナンスや大学の特色に結びつける機能強化が外に見える使い方をしなくては第3期になってからそれなりの評価を受けてしまう。この経費を単純に教員の研究費にすることは対外的な説明がつかないので、今回は従前の学長裁量経費を一部包含する形とした。</p>